

2 保護者アンケート結果・考察

*文章中に出てくるパーセンテージの数値は「はい」「どちらかといえばはい」の肯定的な回答の合計値です。

*一昨年度⇒昨年度⇒本年度【児童】の数値です。(調査対象 176名)

(1) 朝食を毎日食べている 97.7 ⇒ 96.0 ⇒ 93.9 % 【91.7 ⇒ 97.1 ⇒ 94.4 %】

(2) あいさつができています 92.4 ⇒ 94.4 ⇒ 97.0 % 【92.3 ⇒ 92.9 ⇒ 92.6 %】

(3) 学校の決まりを守っている 97.6 ⇒ 98.3 ⇒ 98.8 % 【93.9 ⇒ 92.4 ⇒ 94.5 %】

(7) 家で学校の宿題をしている 87.1 ⇒ 85.8 ⇒ 89.0 % 【87.8 ⇒ 90.6 ⇒ 94.5 %】

基本的な生活習慣に関する項目では、ほぼ9割の保護者が肯定的な回答をしている。児童の回答の割合ともほぼ同割合である。特に、「あいさつ」「決まりを守る」といった社会性の基盤となる項目で肯定的な回答が多く、各家庭における日常的な躰や学校教育への理解・協力が浸透していることがうかがえる。朝食についてもほとんどの家庭が食べさせるように心がけてくださっている。今後とも学校と家庭が連携して、100%に近づけていきたい。

(4) 家で学校の出来事について話をする

89.5 ⇒ 89.8 ⇒ 87.8 % 【81.2 ⇒ 78.5 ⇒ 79.0 %】

保護者は、約9割が学校の出来事について話していると答えており、これからも家庭での積極的な声かけをお願いしたい。約2割の児童が話せていないと感じているので、保護者からの声かけで、学校での様子について話す機会を作ってもらえればと思う。

また、学校での児童の様子や学校行事については、学校ホームページを随時更新し学校側からできる限り伝えるように心がけている。今後も積極的な教育活動を行っていきたい。

(9) 学校に行くのは楽しいと言っている

85.4 ⇒ 85.3 ⇒ 80.5 % 【81.2 ⇒ 81.3 ⇒ 86.5 %】

肯定的な意見が約8割だが、保護者と子どもの意見は少し違っている。「楽しい」と感じている児童がわずかながら増えた一方で、「楽しいと言っている」と感じている保護者はわずかながら減少している。これは、児童が学校での満足感を得ている、それが家庭での会話として十分に伝わりきっていない可能性を示唆している。

(4)の約2割の児童が「学校のことを話せていない」と感じている現状を踏まえ、保護者が子どもの小さな変化や気持ちに寄り添えるよう、学校側からホームページや学級通信を通じて活動の様子をより具体的に発信していく必要がある。また、保護者には、学校で十分に聞き取れていない児童の気持ちにより添い、家庭での子供との会話に努めていただくように啓発し、細やかな情報交換ができるようにしていきたい。

(8) よく読書をする 32.3 ⇒ 32.8 ⇒ 36.6 % 【70.7 ⇒ 69.6 ⇒ 64.2 %】

児童の読書離れを保護者もほぼ認識できている。読書は学力向上にもつながる。保護者の協力を得ながら読書の意識を高めていきたい。

社会状況の変化とともに家庭でのメディア使用も増え、読書の時間は減少しているが、デジタルにおける活字を読む時間は増えていると考えられる。今までのように、ペーパーによる活字だけを読書にとらえる読書から幅広い読書という考え方の移行も必要ではないかと考えられる。

木曜日に図書室の本を借りて帰る「家庭読書の日」を設けているが、引き続き、読書をよびかけていきたい。

(5) 失敗を恐れずに挑戦している 74.3 ⇒ 68.7 ⇒ 66.5 % 【84.5 ⇒ 82.5 ⇒ 80.2 %】

自尊感情や自己有用感に関連する項目である。児童は約8割が肯定的に答えているものの保護者は約7割にとどまり、減少傾向である。

自分の能力や可能性にチャレンジする機会や、自分に自信が持てるものが見つけられる活動や体験を増やしていけるよう今後も計画を進めていきたい。

(6) 自分にはよいところがあると言っている

88.4 ⇒ 84.2 ⇒ 82.3 % 【90.1 ⇒ 87.7 ⇒ 86.4 %】

(10) 友達の話や意見を最後まで聞くことができる

86.0 ⇒ 87.6 ⇒ 87.2 % 【91.7 ⇒ 93.6 ⇒ 93.2 %】

(11) 友達と話し合いができています 90.6 ⇒ 92.0 ⇒ 85.4 % 【86.2 ⇒ 88.3 ⇒ 84.6 %】

(12) 友達の前で自分の考えを伝えることができる

79.0 ⇒ 80.1 ⇒ 75.0 % 【79.0 ⇒ 75.4 ⇒ 74.7 %】

(13) 学級で協力できている 95.3 ⇒ 94.3 ⇒ 95.1 % 【81.2 ⇒ 91.8 ⇒ 88.8 %】

どの項目の結果も、保護者の方が子供たちを大切に見守り児童理解に努めていることが感じられる。学校では児童の望ましい行動を認め称賛することにより、児童に自信を持たせ、よりよい行動へと導けるよう支援している。今後も児童が達成感を感じ、より望ましい行動へと意欲的に取り組んでいけるよう支援を続けていきたい。

また、学校での生活や活動の様子を保護者の方々に伝えられるよう、学校ホームページへの掲載や授業参観などを今後も取り組んでいきたい。

(14) 学校はきれいで落ち着いた環境作りに努めている 93.6 ⇒ 91.5 ⇒ 92.7 %

(15) 学校は子どもの良さや気持ちを理解してくれている 88.9 ⇒ 88.7 ⇒ 89.7 %

(16) 学校は保護者の願いを受け止めようと努力している 94.7 ⇒ 89.8 ⇒ 93.9 %

(17) 学校はいじめ問題に積極的に取り組んでいる 90.1 ⇒ 88.1 ⇒ 88.4 %

(18) 学校は子どもの人権を尊重する姿勢で指導している 95.4 ⇒ 93.2 ⇒ 93.3 %

学校の取組に対して、どの項目も9割前後の保護者が肯定的にとらえてくれていることがわかる。この状況を継続できるよう今後も取り組んでいきたい。

児童や保護者の気持ちの理解については、学校の取組が十分ではないと感じている保護者の方もいる。そんな保護者の方の声がきけるように、気軽に相談していただけるように、児童、保護者の気持ちに寄り添いながら、全ての保護者から信頼される学校となるよう全教職員で更なる努力を続けたい。